

平成 29 年度 第 1 回萩市立図書館協議会 議事録

平成 29 年 7 月 12 日 (水)

14:00 ~ 16:00

会場 萩市立萩図書館

出席者	協議会委員 8 名	津田和夫委員・大島昌子委員・安達和代委員 藤原重子委員・的村るみ委員・中村由美委員 杉山芳文委員・岡崎祐介委員
教育長		中村哲夫
事務局		市民活動推進部 弘中部長 萩図書館 江山館長・坂本館長補佐・松浦主任 須佐図書館 河口主任 明木図書館 阿部館長・森岡主任司書 田万川中学校図書館 福島館長・須郷総括 NPO 萩みんなの図書館 澤井理事長・藤山副理事長

1. 開会のことば (阿部館長)

本日は、萩市図書館協議会にご出席頂きありがとうございます。只今から平成 29 年度第 1 回萩市立図書館協議会を開催します。

2. 教育長あいさつ

今期、快く図書館委員を引き受けていただきありがとうございます。萩市立の図書館では、11 万人位の利用者が毎年あり、貸出数は 37 万点に迫ろうとしている。このような規模の町では、そんなに遜色のない数字だと思っている。それも萩図書館を中心としたそれぞれの図書館の独自性、萩でしかやっていないようなものにも取り組んでいただいたり、そして今日お集まりいただいているそれらを支援していただいている皆様方のおかげだと思っております。今日は、28 年度の事業報告と 29 年度の事業について皆さんにお諮りしたい。どうか忌憚の無いご意見をいただきたい。

3. 図書館協議会会長・副会長の選任について

坂本補佐 会議の議長は会長が務めることになっているが、改選でまだ決まっていない。それまでは、事務局が会を進める。会長は互選による。意見はないか。

【委員から事務局に一任の声】

事務局に一任の声があったので、事務局から案を示したい。会長は大島委員、副会長は本日欠席されているが、委員歴の長い鎗分委員にお願いしたい。

【拍手により承認】

坂本補佐 会長、前の席へ移動をお願いしたい。挨拶を一言願います。

大島会長あいさつ

図書館協議会について調べてみると、図書館協議会とは市民の代表として、図書館の運営に関して館長の諮問に応じるとともに、図書館の行うサービスなどについて意見を述べることとあった。従って、簡単に言うと館長をはじめとした図書館職員が報告して下さることなどに意見を言うことが1つ。もうひとつは、それに関係なく自分が図書館に関して何でもいいから持っている意見があれば自由にいうこと。この2つに分けて考えたら、必ず1つか2つは意見が出てくるのではないか。私が感じてきた萩図書館の特色は、1つはNPOとのコラボでうまくいっている。2つ目は、日本図書館協会認定司書という制度があり、その中に萩図書館の館長の江山規子氏が選ばれている。司書や図書館の格を上げようという取り組み。この制度は平成22年度からスタートして、今年度は19人が認定され、全国の認定司書はこれで135人となった。江山館長の2つの論文をコピーして持っているのよかったですらお貸しする。

坂本補佐 規定により、議長は会長があたることになっている。大島会長に議長をお願いする。

4. 議事

会 長 議事(1)平成28年度事業報告及び平成29年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。

坂本補佐 萩図書館の事業報告・事業計画について説明(年報)

河口主任 須佐図書館の事業報告・事業計画について説明(年報)

森岡主任司書 明木図書館の事業報告・事業計画について説明(年報)

須郷総括 田万川中学校図書館の事業報告・事業計画について説明(年報)

会 長 意見・質問を順に願います。

委 員 各図書館の努力を感じた。各図書館へ行って1冊でも多く本を借りたい。

委 員 萩図書館しか利用したことがないので、他の図書館も行って見たい。各図書館よく努力されていることが分かった。

委 員 須佐図書館、明木図書館に興味がある。学校の授業での利用と地域の人利用について様子を知りたい。出来たら視察に行きたい。

委 員 大学生から萩図書館へは本を借りに来たり、勉強に利用したりという話を聞くが、須佐、明木、田万川の図書館の話も聞かせていただいて学生へ情報発信して行きたい。

委 員 各図書館それぞれ努力されていると感じた。明木、田万川など学校の中にある図書館は行けたらいいと思うが敷居が高く感じる。地域の方たちの利用はどうだろうか。須佐図書館では子どもの利用を促進し、入口を低くしている。

委 員 田万川中学校図書館は、地域の方がサークルでも学校の施設を利用され、その時に図書館を利用される。授業の時間と読み聞かせの時間がうまく合わないの、子どもたちとの関わりは少ない。田万川中学校図書館の予算がどんどん削られていてなかなか新刊が買ってもらえない。小さな図書館もある程度新刊が入らなければ足を運ぼうという気持ちは減るのではないだろうか。小さいから、利用者が少ないからではなく、行政の方にがんばっていただき、ある程度の予算を頂けたらいいのではないか。田万川中学校図書館は、須佐図書館から本を定期的に入れかえていただき、本当にありがたい。新し

- い本が入ると利用は伸びるはず。これからも続けてお願いしたい。
- 会長 解決方法などを後ほど図書館から答えて頂きたい。
- 委員 図書館の利用者の数をどうやって増やすかに興味がある。萩の図書館はだいたい小中学校の近くにあるので、小中学生の利用者は多いのではないと思うが、本当に本を読む人は高齢者が多いと思う。しかし、高齢者は移動する手段のない人が多い。移動図書館の利用を勧めるなどの工夫をすることが必要ではないか。年代別の割合をみると61歳以上の利用が多い。時間の余裕があるためか。新刊については、読みたい本に予約すれば近くの図書館に届くというシステムがあるのでは。
- 会長 色々と質問が出たが、それについて館長いかがか。
- 江山館長 各図書館に行ってみたいということについてですが、昨年度は新しく建設された明木図書館で開催した。協議会を地域の図書館で開催することも今後考えたい。至誠館大学の学生への情報発信については、学生も足がないと地域の図書館へ行くのが難しいが、ネットで予約して萩図書館や移動図書館で本を受け取ることもできる。図書館ホームページから利用者番号と8桁のパスワードを入力してもらえれば、予約ができ、受け取る場所も指定できる。予算について、萩・明木・須佐の3館の予算については、各図書館で要望を出し、図書館費として予算要求する。田万川中学校図書館は、公立図書館ではないので、学校教育費の予算になっている。財政状況も勘案しながら優先順位もあり、なかなか要求するだけの予算がとれないところがあるが、引き続き要望は出していきたい。萩図書館全体の利用状況については、同じ人口規模の自治体の図書館としては遜色ない利用の状況だと思う。
- 河口主任 先程のご意見で高齢者の利用についてあったが、図書館年報の11ページにあるように須佐図書館では、小学生と61歳以上のご高齢の割合が非常に多い。絶対数は少ないが、平成27年度については61歳以上が28%を占めていた。さらに28年度については32%に増えている。毎年高齢者の方の新規登録が小学生の次に多い状況になっている。段々歳をとられていくというよりも新しい高齢者の方が利用を始められたということがあるので、児童に対するサービスを重視するとともに高齢者に対するサービスをこれから合わせて考えていかなければいけない。よい知恵があれば委員の皆さんにもご意見をいただきたい。
- 森岡主任司書 地域の方と学校との利用について、一般の方の利用が少ないのであまり重なることはないが、授業中に利用された場合はほとんどの場合、見守っている。学校の雰囲気もわかるので良いと思う。百人一首を一般の方が飛び入りで読まれたことがあった。学校として良いかどうかはわからないが、たまにはそのような交流があっても良いのではと感じた。敷居が高いのではというご意見については、以前は明木のメイン道路にあり、農協や総合事務所に行く途中で寄られる方が多かったが、坂の上になり、行きにくくなったとの声もある。このたび明木の巡回バスの停留所として加えてもらった。要望があれば図書館によってもらえる。帰りはその方の都合に合わせて送ってもらえるが、実際にはまだバスの利用はない。利用者の年齢層が変わり、子ども連れの若いお母さんが多くなった。子ども連れで利用しやすくなったため、全体としての利用は増えている。
- 須郷総括 田万川中学校図書館の職員数は、年報の3ページを見ていただくと6人ということになっているが、実際は臨時職員4人がローテーションを組み受付、貸し出し業務を行っている。蔵書は約1万冊。月2万6千円ぐらいの限られた予算の中で、月に15から16冊の新刊を購入している。地域と子どもの交流については、田万川中学校図書館が主体となって行うことは難しい。田万川中学校は地域に開かれた学校ということで、学校の

教育の中での地域と子どもさんとの交流することは可能と思う。読み聞かせも、4、5月は参加者が1人や2人の日、来られない日もあったようで、今は保育園へ出向いて、読み聞かせをおこなっている。中学校の図書館でも人が集まるようであれば、読み聞かせも出来るが、実際はなかなか参加していただける方がおられない。昨年度の利用者は、1日平均7人ぐらいで、あまり利用者と出会うことがない。開放型の教室があるので、そこでサークル活動等をされている方との関わりはあるし、帰り際や来られた時に図書を借りられるというケースは多々あるのではないかと思う。

会 長 至誠館大学の学生の利用の働きかけと情報提供をお願いします。図書館に来られる人はいいけれど、来れない人に対するサービスを。アンケートの機会があれば、どんな希望があるのかを聞いて欲しい。予算の要求については、協議会からも働きかけを。

会 長 議事(2) 萩図書館の今後の組織のあり方について、事務局から説明をお願いします。
坂本補佐 萩市立図書館(萩・須佐・明木)の今後のあり方について館長会議での検討結果について報告した。(協議会資料1)

会 長 今後の組織のあり方について、事務局も前向きに考えておられることが伺えた。意見・質問はありませんか。

委 員 あり方について、どういった方で協議したのか。

江山館長 3図書館の館長とそれぞれの館の専門職の職員で話し合いをした。合併が進む中で、色々な図書館の組織の形があり、萩のようにそれぞれの地域にあった図書館がそのまま地域の総合事務所の組織の1組織の中に入っている形は少ない。大きい図書館が中央館でその下に分館という形でぶら下がり、館長は中央図書館の館長が一人で他の館の館長を兼ねる形が体勢を占めている。そういった中で萩市が今後どういった形にするのか。総務課から図書館としての考えを集約するよう打診されていたので、それぞれの図書館の職員が集まり検討を行った。地域は地域の事情が一番分かる館長をそれぞれ配置し、それぞれの運営方針の下で各館が館長の下にがんばる。萩図書館の業務自体はNPOに委託しているので、職員は図書館政策課的なことを行う部署とする。3図書館及び田万川中学校図書館、公民館図書室、学校図書館を含めた萩市全体の読書推進をどのように考えて行ったらよいか大局的なことを考える組織にした方がよいのではないかといい検討結果となった。

委 員 意図がよく分かった。萩図書館は別として須佐も明木も市の組織の中に、図書館としてではなく別の組織に入っているように見受けられるので、公民館、田万川中学校図書館も含めて全体の図書館の運営をどうするか考える方が図書館サイドとして一番大事なことはないか。

委 員 よいと思う。

会 長 地域が活かされて、地域の特長を生かしていて良いと思う。総合事務所長が図書館長を兼ねていて、中央に繋がっている。今後、図書館政策課ができるかどうか。今日のやり取りは、議事録が回ってくるだろうから、再度考えてみて欲しい。なるべく早く議事録をお願いしたい。

阿部館長 明木図書館の開館年月日は、明治39年11月1日となっている。明木村というところで、全国で始めて図書館ができたという歴史がある。瀧口さんが私財を投資されて図書館ができたという経緯があるので、明木図書館の館長を置いてほしい。地域の声として、図書館に歴史があるということも是非お含み置きいただきたい。

会 長 地域の方で館長を務めるようにということか。

- 阿部館長 そういう訳ではない。総合事務所がそのまま有れば所長が館長兼務という形で、明木図書館に館長がいる状態であってほしいということ。
- 会 長 市町村合併が行われて、ある程度の時期が過ぎているが色々な面で旧郡部や旧市からの希望があるかと思う。記録に残しておいていただきたい。
- 江山館長 あくまでも図書館全体の希望を図書館の意見として総務課へ届けるもので、これが最終決定になるかは分からない。早急にどうこうはならない。
- 会 長 この協議会の中で出た意見の記録をそのまま届けていただきたい。それがこの会の役割だと思う。
- 委 員 基本的には、お客さんが沢山来ることが一番の目標。ユーザーの意見をうまく汲み取られるようなかたちがとればいいのではないか。
- 会 長 萩の中央図書館を含めて、ユーザーである利用者になるべく沢山来るようなことが最終的な目標ではないかという意見は大事な意見だと思う。
- 教育長 課題として幾つかあがっているが、図書館政策課を設置することで、この課題は解消できるという捉え方をするのか。メリットはいいと思うが、幾つかあげられている課題を解決しないまま現状維持とするのでは、前に進まないのでは、図書館政策課を設置することで課題が改善されるという捉え方でいいのか。
- 弘中部長 今までの組織の形態は独立した3館。他市では、中央図書館と分館という組織の形態が多い。なぜかという指示系統命令が明確で、効率的な運営ができるため。地域の歴史、文化といった独自性はそのまま残して置こうというのがそれぞれ独立した館を地域に置く理由。課題1の中央図書館長が3館を兼ねる場合、なかなか地域館に目が行き届かない。全てを把握することは難しいので3館にそれぞれ館長を残そうということ。課題2の独立した3館を残した場合、独自性はあってもよいが、全体を考えたサービスの向上を専門的に考えるセクションが必要ということで、萩市立図書館全体の底上げ、レベルアップを図っていくために全体の運営方針を考える。司書の問題も職員の問題も3館それぞれで考えるよりも全体を見越して考えて、3館の統一を図るという趣旨で3館を取りまとめるセクションとして図書館政策課を置こうというのが、現時点ではベストではないかと館長会議で話し合った。組織のことや人事権は総務課にあるので、総務課へ要望をあげて行く。
- 委 員 各館の臨時職員についても図書館政策課に決定権があるのか。
- 江山館長 それぞれ独立館なので、それぞれの館の館長が決める。図書館のあり方や運営のあり方といった全体的なところを図書館政策課が行う。個々のことは、それぞれ独立館なので、各館長の方針のもとやっていく。採用や職員の話は、それぞれの館長が決めるのがベストではないか。総合事務所長がそれぞれの館の館長となって運営した方が地域ニーズに即したサービスができていくのではないか。連携が取りづらい状況は、館長会議を定期的に関き情報交換、問題提起をして解決していけばスムーズにいくのではないか。
- 会 長 図書館政策課と3館の各館長のあり方について、1人ずつ意見を。
- 委 員 全体の基本戦略を決めて、戦略どおりに運営して行く考えだと理解している。その場合、図書館政策課で行うのか。別に戦略会議を作って5年ごとに見直しを行うのか。トータルコスト、人件費がかかってくるだろうが、合併に伴って臨時的な人事運営方針が置かれたので、それを見直すことが必要。教育長が言われたように、図書館政策課を作って課題を解決するというよりも、今後の図書館をどうするかを決めて、結果的に課題が見えてくる。課題が先に出て、ものの解決が難しくなるような気がする。合併に伴ったシステムやしっかりした萩の図書館というものをどうするか、骨太の基本計画を作られ

ることが一番大切で、後のことはそれから考えていくことになるのでは。

委員 まだよく分からないが、萩・明木・須佐の3館は3館のままで、その上に図書館政策課を作って、そこで共通理解とか色々な問題の解決をする部分を作り、館長たちとも話し合いをして下に下ろしていく。そうすることで、図書館の職員の向上もあり、利用者にとってよりよい図書館になるようにということか。

江山館長 今は、萩図書館は基本的には萩図書館のことだけを考えている。萩図書館は運営方針も作成しているし、それに基づいてNPOに委託をして業務を行っている。他の館は、運営方針を明文化したものはない。今後はそれぞれの館の運営方針を作成し、それに基づいて萩市全体で図書館サービスを考えるところが、図書館政策課が行う仕事となる。萩図書館は萩図書館のことだけを考えてやればいいのかではなく、萩市全体の図書館サービスを考える。今はそれぞれ館長がいて、自分の図書館のことしか基本的には考えていない。基本的にはそれぞれの館長の方針の下でそれぞれのサービスが展開されている状況であり、将来的には全体の図書館サービスを考える組織が必要ではないかということで、一番大きい萩図書館に図書館政策課を置くのが一番望ましいと考えている。

委員 それによって、市への要望は通り易くなるのであればよいことだと思う。

委員 人が一番大事。司書という資格があるというのは、図書を専門に勉強する学問があり、それが仕事に繋がっているのだから、図書館というところがあるのに、きちんと定期的に雇っていないのでこういう要望や課題が出てくる。図書館が今後もずっと市民にとってより良いサービスをしてくれる部署であって欲しいということを進めていくことと理解している。図書館はどのようなサービスをしていけばいいのか、萩市全体としてはどうしていけばいいのか。なおかつ、それぞれ歴史のある図書館が独自性を出したいということであれば、そのまま維持していけばよい。一番大事なのは、資格がなぜあって、そういう学問があるかということに大事にして、仕事として働く人を雇っていくこと。結局は市民へのサービスがより良いものになる。欲しい資料を適切に示してもらえ、相談にのってもらえ、アドバイスしてもらえということに繋がる。要望のところを一番大事に。

委員 各館の館長さんをはじめ上に携わっている方が、やり易く地域の方にいいサービスが提供できる形になればいいのでは。

委員 これからも色々な課題が出てくると思う。人口減少もあるだろうし、それでも人を大切にして、20年後には専門職員が誰も居ないという状況にならないようにする考えに賛成。ただ、3館の館長が密に連携を取って意見交換していけば課題は解決できるのではないか。

委員 それぞれの図書館で課題がきちんとでていっているので、そちらに向かって解決していけばよい。司書が不足しているのか。司書を持っている人は沢山いると思っていた。職員の人材育成が一番だと思う。そのためには、人件費をアップしてもらい、納得のいく給料をもらえればよい人材が集まるのではないか。資格者が自分たちで発展するために話し合っていく体制を作ることが一番で、縦のラインはやり易いように組織作りをすればよい。

委員 図書館スタッフがやり易く、利用者がよりよいサービスを受けられれば図書館政策課を設置してもいいと思う。

5. 報告

会 長 報告事項について、事務局から説明をお願いします。

坂本補佐 〔説明〕

- (1) 「ライブラリーセッション」「夏の歴史館」について
- (2) 「第19回図書館振興県民のつどい」について

江山館長 〔説明〕

- (3) 萩市子ども読書活動推進計画の策定について

会 長 事務局から説明がありましたが、意見・質問はないか。

質疑なし

6. その他

坂本補佐 次回協議会は30年2月に開催の予定。

7. 閉会のことば（福島館長）

これからの萩市立図書館のあり方など建設的な意見ありがたい。初めて図書館協議会に出席した。ぜひ田万川中学校図書館にも来館を願う。

資料1

萩市立図書館(萩・須佐・明木)の今後のあり方について

□現 状

合併時に須佐・明木図書館は萩図書館の分館とせず独立館とし、それぞれの総合事務所の組織内の1部署と位置づけられた。館長は総合事務所長が兼務しており、それぞれの館の運営は各館長の方針のもとで行われている。市職員の専門職採用が無い中、今後の3図書館の組織体制について協議した。

□今後の体制・・・現状維持とする

各館独立館で、須佐・明木図書館は総合事務所の1組織

各館に兼務館長(市正規職員)と市正規職員の専門職が在籍

萩図書館に図書館政策課を設置し、田万川中学校図書館・公民館図書室等を含む市内全域の図書館、図書室の運営について考える組織とする。

萩図書館は「NPO萩みんなの図書館」と協働運営し、他の2館は正規職員と嘱託職員を雇用して運営する。

□メリットと課題

メリット

- ・地元の状況を把握している館長の指示を受けやすい
- ・利用者の利用状況を把握した専門職職員による蔵書構築が可能
- ・軽微な決定事項は市職員が専決でき、速やかな対応が可能
- ・職員が直接館長に報告・連絡・相談ができる
- ・緊急的に予算が必要な場合、総合事務所の地域調整費で対応できる
- ・主に自館の管理についてのみ考えておけばよい
- ・それぞれの地域の実情に即した運営ができる

課 題

- ・館長は兼務職が複数あり、業務負担が多いため、地元であっても図書館の状況まで把握するのは大変である
- ・各館に館長が存在するため、萩市内全体としての図書館サービス計画が定まっておらず、必要な連携がとりづらい状況にある。
- ・司書有資格者の臨時職員の人材確保が困難な場合、急激な図書館サービスの低下を招くおそれがある。

□有資格者の必要性

- ・図書館理念に精通し、公共図書館の意義や使命を理解し、館の継続性と公平性、永続性を保つサービスをするためには、経験を蓄積した人材が必要。特に館長は行政全般の各分野に関する知識や情報予算執行の技術管理が出来る人材が望ましい。
- ・図書館業務について基本的な知識や情報をもって図書館政策を企画立案し、館の蔵書構成（選書や廃棄）について責任を持つ人材が必要。
- ・20年後、専門職員（司書）が不在になった場合、図書館は単に無料の貸本屋と化していく恐れがある→図書館は市民一人ひとりの教養、調査研究、問題解決、生涯学習活動を支えるための資料を提供しなければならない→レファレンスサービス、レフェラルサービス、情報提供、読書アドバイス等のサービスが継続的に必要。
- ・現在、司書資格を有し、萩図書館勤務経験のある職員は皆40代である。公共図書館は、現在3館で、今後10年間は司書資格がある職員がどの館にも配属可能であるが、このまま、採用せずに進めば、それ以後は配属が難しくなる
- ・萩図書館は、現在、萩市の直営で、NPOと協働で運営しているが、市に図書館業務に精通した司書職がいなければ、NPOとの均衡が保てなくなり、現在の基本方針である協働経営が難しくなる。
- ・営利性や効率性を追求する指定管理による業務委託は、市の教育文化の質的低下に繋がる（図書館は民度の高い考える市民の成熟により支えられる）。→萩市民の教養文化の質の保持が望まれる。

□今後の要望

- 1.現在司書資格のある職員(一般行政職)の配置を要望
- 2.司書資格のある一般行政職職員の採用
- 3.図書館配属の専門職採用